

第5回タクシー事業適正化・活性化協議会

平成24年1月30日午前10時～

北海道運輸局北見運輸支局2階大会議室

1. 開会

・設置要綱に基づき、15名中全員の出席を以て協議会の成立を宣言

・委員異動の報告

北見市企画財政部地域振興室長 川名淳文氏 → 浅野目浩美氏

北見労働基準監督署長 小林覚氏 → 後藤亮氏

北見市ハイヤー組合理事 馬場英司氏 → 松田哲郎氏

北見運輸支局長 高橋博之 → 西原英二

・会長挨拶

厳しい経済情勢の中、タクシー事業者の総収入が上がっていない。大震災の影響により売り上げが落ち込んでいた。ただ、秋頃からはそれが復調して来た。

この後、適正化・活性化について忌憚りの無い意見をお願いしたい。

・座長挨拶

みなさまの意見を頂き、より地域のタクシーを活性化して行きたい。是非忌憚りの無い意見を頂き、北見地域の適正化・活性化についての方向性をみなさんと議論していければと思う。

2. 議題

(1) 協議会設置要綱一部改正について

前回協議会の指摘に基づき、北見タクシー労働組合を代表する者を追加

→ 異議無く承認

北見タクシー労働組合執行委員長山川尚之氏が委員として就任

(2) 特定事業計画の進捗状況等について

1. 特定事業計画認定申請・認定状況

【事務局（山口）】

○株式会社石川観光平成24年4月に1両の減車について事業再構築の認定を受けている。

○基準車両数からの減車率は10.5%、タクシー特措法施行日前日からの減車率は11%となっている。

○特定事業の認定状況は変化なし

○輸送実績の推移

- ・平成22年の実績をみると前年比で実働率が約2%、実車率も若干上がっているなので、減車の効果かと思われる。
- ・総車両数については、平成24年4月に1両の減車で171両となる。地域計画が定める適正車両数上限の164両に迫ってきている。
- ・営業収入については、平成23年7月くらいまでが前年を下回っている。その後、横ばいかやや上向き傾向である。
- ・昨年比で営業収入が下がっているが、1車当たり営業収入が若干上向きの傾向にある。減車の効果で1台当たりの営業収入が増えているものと思われる。また、それに伴い運転者平均給与も増加している。

【高橋座長】

マクロデータでは実働率や一車当たり営業収入が上がっている。各運転者の感覚・会社の感覚としてそれが合っているかここで聞きたい。

特に、1台当たりが忙しくなったのか、年末年始のピーク時の利用者の苦情の状況など生の声を聞きたい。

【事務局長 東雲】

震災後は他管内からのタクシーチケットの入り込みが減少した。特に札幌からのものだが、これから考えると流動人口がかなり減ってしまったものと思われる。現金での利用も相当減ったものと思われる。

【金星北見ハイヤー株式会社 松田委員】

年末年始は昨年同様の忙しさであった。ただし、一部減車において利用者に迷惑を掛けたかも知れない。道路状況によるものもあるが、若干の苦情を受けた。

【北見タクシー労働組合 山川委員】

年末年始は忙しかった。当社は台数が増えたが、個人の売り上げは上がっている。

【北見金星自動車労働組合 三浦委員】

1台当たりの売り上げは上がっている。配車の遅れについては若干苦情があった。

【北海道交通北見労働組合 堀田委員】

年末までは昨年同様売り上げは順調に推移している。年始は降雪が続き、また、その後路面状況が悪く、そして寒さが続いているので利用動向は順調である。震災の影響は脱しているように思われる。減車の影響については、待ち時間に関する苦情が多少来ているようである。

【株式会社石川観光 石川委員】

元々台数が少ないので、忙しい時は車両が回らない。ただ、それは一時的なものである。

【西原会長】

利用者を待たせる時間はどのくらい増えているのか。

【金星北見ハイヤー株式会社 松田委員】

昨年同様と捉えている。

【北海道交通北見労働組合 堀田委員】

例年どおりではあるが、今年は路面状況等で少し配車に時間が掛かるようになってきている。極端に苦情が増えている訳ではない。

【北見金星自動車労働組合 三浦委員】

例年どおりかと思われる。

【西原会長】

配車の遅れが減車の影響ではなく安心した。

【高橋座長】

冬の道路状況が減車よりかなりウェイトを占めていると思われる。利用者も仕方ないと考えてもらえると思う。また、夏の状況について次回の協議会に検証できたと思う。ほかの方の意見は無いか。

【北見個人タクシー協同組合 木戸口委員】

年明けに特急や都市間バスの到着時に、駅やバスターミナルで利用客が並んで待っているのを見た。最近では見ない光景であったので減車の結果かと思っていたところである。最近日中でも利用客が並んでいるのをよく見る。

【西原会長】

本来であれば利用客がいるときに、タクシーもいれば良いのだが、ピーク時に車両数を合わせるのは経営や労働者の賃金面で大変であり難しいのではないか。利用者にもこの協議会で議論されていることをオープンにし、理解をしてもらうのが重要であり、そのように努めたい。

【高橋座長】

別の見方をすれば、タクシーを効率的に回すには、街の除雪のあり方・道路状況が影響するところもある。路面管理を含めて考える必要がある。

減車のプラス面、マイナス面、また、冬の特徴が出ているようである。

(3) 観光に係る分科会及び講習会の取り組み状況について

【株式会社北見タクシー 平子委員】

私は北見の観光とは何か、今まで理解していなかった。北見の大方の乗務員もそうかと思う。

そのようなことからまず、観光について北見の乗務員の意識を改革するということを目的として、観光講習会を開催した。事業者側が乗務員教育にあたって違う視点から考えてみるというものである。

そこで、北見市民・ビジネス客・観光客からのリクエストがある北見のおいしい店・お土産屋の情報について、意外に会社・乗務員で情報を共有できていないことが分かった。そこで、各社乗務員にアンケートを行い、おすすめのラーメン屋・焼き肉屋・スイーツ店・お土産店を調査しそれらの「勝手ランキング」を作成した。

また、市内イベントの「はしご de ラリー」（繁華街の飲食店をスタンプラリーで回るもの）の設営からチケット販売までボランティアで手伝いをした。飲酒のイベントであるので、タクシー利用が増えることも見込まれると思い取り組んだ。

まとめになるが、これまでの取り組みで観光に対し乗務員の意識が変わってきた。また、観光協会との情報共有ができ、市内イベントの情報が入るようになり乗務員に事前に教育ができるようになった。

【高橋座長】

「勝手ランキング」は公表されているのか。

【株式会社北見タクシー 平子委員】

ランキングが独り歩きしてしまっただけで困るので、公表はしていない。

【高橋座長】

情報共有・意識改革で観光協会の関わりが大きかったようであるが、どうか。

【北見観光協会 高橋委員】

観光協会と現場の方とのつながりができてきている。

互いに情報を共有する中で、どうしたら受益者となれるかが焦点となる。市外から来る観光客を、観光地から観光地へのアクセス手段としてのタクシーとするか。乗車率・収益率アップのため、北見市の「中からの活性化」をどうするのか。その観光客として最近捉えているのがビジネスマンである。また、工業大学や看護大学で行われる各種学会・コンベンション出席者も同様である。オホーツク総合振興局調査の上期の観光客入り込み数が出ているが、北見自治区は対前年比98.4%であり落ちていない。しかし、温根湯地区は64.2%、網走地区は回復傾向であるが観光ホテルの落ち込みが大きい。

そのような中、「中からの活性化」では法人タクシーに協力頂き、はしご de ラリーを10月に行った。これにより、タクシーと社交飲食業組合の協力関係の雰囲気が出てきている。これが北見の「中からの活性化」であり、それがビジネスマンを楽しませるものである。

分科会一つにテーマを絞るのではなく、何かあった際にその都度それについて話し合うとか多方面でやっていくのが良い。

【高橋座長】

定期的に分科会が開かれることが決まっている訳ではないのか。

【株式会社北見タクシー 平子委員】

不定期にイベントがある前に行っており、過去4回行っている。

【北見観光協会 高橋委員】

オホーツク圏観光連盟で出した資料についても提供させて頂き、こういう動きがあるというものを情報の共有化させて頂きたい。

【高橋座長】

商工会議所山本委員は何か意見は無いのか。

【北見商工会議所 山本委員】

商工会議所には交通観光委員会というものがあり、私が担当なのだが、色々なところで観光が議論されている。問題なのは「おもてなし」と「手間替え」、「連携」と思っている。会議所のメインは「ぼんち祭り」である。来年は60回を迎えることになる。これからの祭りはどうあるべきかを課題としている。今やっている内容のものを続けていくのか、一部新しいものに切り替えるのか、まるっきり新しいものに変えてしまうのか詰めに入ろうとしているところである。

次に、食の問題も大きい問題である。一市三町が合併したが、各地区の商工会議所間でも連携もなかなか取れていない。難しいところもあるようだが、祭りを通して北見で食だけでも良いので集約して、出店してもらったりして祭りの連携をすることも考えている。

互いの思っていることで連携したら良いと思う。

【高橋座長】

情報共有は重要かと思う。色々な場を使いながら各機関の想いをぶつけ合えれば良い。この協議会の場を通じてできたなら有意義である。他に意見などあるか。

【北見観光協会 高橋委員】

北海道新聞が「ほっかいどう100の道」を募集している。北見にはこの候補がなく、この中で作ってしまえば良い。

網走には「感動の径」というものがある。これには私も関わっていたが、当初ネーミングは適当にした。名前だけで「これは何だ」と思われるようにした。半年間は1社にしか旅行会社には教えなかったが、口コミで大手旅行会社が知らぬうちに走るコースにしていた。この道は一本の松があるだけであり、ほかは北見で見ているいつもの光景のみである。

このように名前を適当に付けて、一つのものに向かって何か作ってみるというのもおもしろいと思う。

【高橋座長】

事業者・乗務員の意識改革が必要との話があったが、次のステップとして、自分たちで観光資源を作ることがある。道に関して一番情報を持っているのは乗務員かと思うので、道につながる観光資源を作っていくのもこれからの大きな方法であり、分科会の最終的なゴールかもしれない。

分科会ではテーマを絞りすぎずいろいろな観点で議論していきたい。

(4) 今後の適正化・活性化対策について

【高橋座長】

運送収入が右肩下がりの中、個人の営業収入は上がっている。このような流れの中でどのように適正化・活性化をしていくか議論していきたい。

【事務局 山口】

観光に係る分科会は今まで同様行っていけたら良いと考えている。タクシー

利用者を増やすため、どうしたら良いかを幅広い方々に議論してもらうため、活性化に係る分科会を開催してはどうかと提案させてもらいたい。先ほど観光協会高橋委員から道につながる観光資源はどうかと提案があったが、そのようなものも含めた意見を出せる場を作りたい。開催時期等は未定だが、当方より参加要請があれば参加頂きたい。

【高橋座長】

昨年まではどちらかと言うと車両を減らすということがメインであったが、本来は活性化しながら適正化の方にいくべきである。活性化を主体にしなければ業界が元気にならない。そのために議論できる場を作っていきたいという提案かと思うがみなさんどうか。

【西原会長】

北見は文化と教育の街なのかと思う。あまり景気にも左右されないでデータが推移しているものとする。何か活性化策は無いかと考えているのだが、なかなか案が思いつかない。例えばほかの街でやっていることを導入しようとするれば金が掛かる。そうなれば経営リスクが大きく、支局として踏み込めない部分がある。そのようなことから、経営者・労働者の感覚として本音はどうかという議論の場を設けなければ解決できないのではないかと。市や商工会議所などの意見を聞きながら、細かな部分を磨き上げていくようなことをしなければ活性化していかない。みなさんから意見を頂く場を新たに設けて、話し合いを持ちたい。

【高橋座長】

みなさんから会長の意見に対し、意見でも感想でも良いので一人ひとことずつお願いします。

【北見北交ハイヤー株式会社 末松委員】

活性化に関して言えば、何か催しを起爆剤にしてタクシーを利用してもらう、また、新しい商業施設にタクシー乗り場を作ってもらってそこで利用してもらうということをやっていかなければならない。商工会や市役所で行事をやって頂いているが、我々も呼んで頂き、一緒になって考えていくことが必要と考える。今の議論の場は小さな枠しかない。良い意見を持っている人がたくさんいるので、もっと意見を他から受けていければタクシーだけでなく、市内全体が活性化していくと思う。いろいろな会議を集約していければ良いものが出てくると思う。

【事務局長 東雲】

今までは、業界はまわりの状況をあてにして、まわりの空気だけで仕事をしてきたところがある。自分たちでこの危機的状況をどう打開するか、一歩進み出すのは今だと感じている。ただ、私がどうしたら良いか案は持ち合わせておらず、つらいところである。

【事務局 山口】

どうしたらよいか、自分たちだけで考えていても案が出ない。タクシーだけでなくバスも含めて言うと、自分自身マイカー通勤から代えなければいけない

と思っているが利便性からできていない。この辺が活性化・利用者増のネックとなっていると思う。

【事務局 後藤】

前任地の札幌のタクシーと比較すると、北見のタクシーには特色がない。札幌では、ペット同乗を売りにしているものや、子育てタクシーといって、子供を学校まで迎えに行き親まで送り届けるというサービスを提供している会社もある。北見ではそのようなものはなく、車体色についても白一色である。

札幌でサービスの企画をしているのは、大抵は若い方、特に女性が多い。北見のタクシーの各社についても、積極的に若い方を登用して特色あることをしてもらえれば良いと思う。

【金星北見ハイヤー株式会社 松田委員】

はしご de ラリーについて乗務員から、景品の玉子を持った人を何人も乗せた、と報告を受けた。これがイベントに協力した成果だと思った。これからも協力・参加していきたい。

また、利用者への配車遅れについて6両減車しても去年と同程度で乗務員の収入が上がったというのは、乗務員に繁忙期に勤務日の変更を受けてもらい、車両を全て稼働させる体制ができたのが奏功したのだと思う。

【北見タクシー株式会社 平子委員】

若い人を含めて関わられるような仕組みを作らなければならない。タクシー乗務員へのアンケートの際には、関わることで興味や関心を持つことになると思った。若い人は良いアイデアが出ることが多いので、北見の大きなイベントではタクシーだけの活性化ではなく、北見全体の活性化のおこぼれをもらう形を取れば良いと思う。

【北見個人タクシー協同組合 木戸口委員】

情報共有化が大事だと思う。東京発のテレビ番組で、おすすめお土産として「赤いサイロ」が出ていた。また、「焼き肉祭り」は結構地方から参加しに来ている。このような情報も共有して把握していかなければならないと思う。

また、観光協会が発行している北見の白地図をサラリーマンや北見工大の新入生に渡している。そのようなことも活性化の一つの手段かと思う。

【株式会社石川観光 石川委員】

当社は運転代行業も営んでおり、それも合わせた売り上げは平成8年まで右肩上がりであった。平成8年は北見市の開基100年があり、売り上げがピークとなっている。その時は街の雰囲気も良かった。これはやはり北見市が主体で観光などアピールして、我々と情報共有・関与をして、イベントをして人を呼べば全然違う。情報の共有・発信が重要である。先ほど発言のあった、各社特色を出すべきという意見も参考になった。

また、以前に観光客が美幌産のメロンに満足された経験があったことから、農業との関わりを持たせ、土産店に行くのではなく、地元のおいしい農産物を紹介するのも良いと思う。

【北海道交通北見労働組合 堀田委員】

人とのつながりも大事だし、土産一つ取っても、土産店に連れて行くのではなく他に目を向けることも重要かと思う。また、北見には全国区の観光や祭りが無い。何か核となるものがあればと思う。北見は病院が非常に多いのでそこにも目を向けて何かできないかと思う。

【北見金星自動車労働組合・三浦委員】

運転者の収入が上がったと言っても、まだまだ他の産業から見れば低い。また、運転者の高齢化という問題もある。

また、運転者が観光など必要な知識を身につけて質を上げていくことも必要と考える。

【北見タクシー労働組合 山川委員】

イベントのアピールが必要と考える。イベント情報を乗務員として知っていても家族が知らないことがある。うまくアピールしてもらえたらと思う。

【北見観光協会 高橋委員】

イベントのアピールについてはお金が掛かるので苦慮している。また、ランキングについてはランクについて当事者から文句が付くことがあるので出しにくい。

病院の多さについては、旅行中に何かあった際の安心・安全のアピールとなり得る。これは日本人には効かないが、海外の人には効果がある。言葉の問題があるが、北見工大の留学生が通訳となってくれれば良い。

来月の焼き肉祭りに際しては、焼き肉をペイントした「焼き肉タクシー」やタマネギの品種の名称から取った「F1 タクシー」を走らせようと酒飲み話で言っている。酒を飲みながら「やってみよう」というのが仕掛けの第一である。

運輸支局には、スポーツツーリズムの観点からラグビーの大八木氏を招待して何かできるようにして欲しい。呼ぶのが一人だったら弱いなら複数の競技を用意して仕掛けをすると良い。

【北見商工会議所 山本委員】

北見には観光がないと考えていた。しかし、以前東南アジアの旅行客を見ると、雪を珍しがり写真を撮ったり遊んだりしていた。雪だけで観光になるのだと思った。北見でできることは、若松スキー場でのボブスレーや歩くスキーなどが考えられる。観光はやろうと思えばできるものと思った。

また、互いのイベントでてまがいをすることも重要かと思う。タクシー業界が何かをやるときは他の業界も手伝う、またその逆も大切である。

【北見市 橋本委員】

生活交通の観点からお話させて頂きたい。観光分科会の資料中にタクシーを地域公共交通として位置づけて頂いているので感謝する。

市では昨年1月に地域公共交通会議を設立し、今年度中に地域公共交通計画を策定する予定である。計画策定に当たり、郊外の交通不便地域に路線バスを走らせるのは大変厳しいので、タクシーでのデマンド交通を視野に入れている。その際はハイヤー組合に相談をさせて頂く。

【北見労働基準監督署 後藤委員】

私共の所掌の労働条件の観点から言うと、よその地域より労使問題が少ないと思う。活性化の観点での関与は正直なところ思いつく部分はない。

一利用者としては、もう少し情報発信をしたら良いと思う。この協議会のメンバーは需給の問題を把握しているが、利用者にはわからない。この日は利用が集中するので配車予約は何分前までにした方が良いですよ、などのアナウンスがあれば、利用しやすくなると思う。また、タクシーで、転勤族が近場で気軽に楽しめるマップがあれば良いと思う。

【北海道北見方面北見警察署 森委員】

安全の観点から言うと、たまに、街中のタクシーの駐車の関係について苦情があるくらいである。自分の過去の勤務地に比べもめ事が少なく、乗務員教育が徹底されているものと思われる。

個人的意見では、デマンド交通では高齢者を戸口から戸口へ移動させるものを作ってもらえれば活性化すると思う。

【高橋座長】

いろいろな意見を頂いた中で、どう進んでいくかを議論する必要があると思う。

地域を活性化しなければタクシーが活性化しないというのは正しいと思う。また、その時に連携が必要ということだが、連携には二つあると思う。それはまず、自分が何をできるか知ることである。行動の連携である。もう一つは、意見を出して頂くのが連携である。皆さんが持っている情報を暗黙知という。それを皆さんが実際に出して、そういうこともあったのか、という気づきの中で次に何をするか物事を決めていくというのが形式知である。今までは皆さんが思っていることを出す場所が無かっただけで、暗黙知はずっと暗黙の中にあっただけである。それを出していくことで、こういうことができるのではないかと、という新たな連携の仕組み・つながりができてくる。これがまさに形式知の良いところである。観光分科会においては、それぞれの情報を出し合い、それに気付かされて次に何をするかを決めていける良いものである。これからも続けていきたいし、また、新たな分科会が必要であれば作っていく。先ほど平子委員からお話のあった関わり合うということの仕組みを作るといことがこの協議会の大事なことかと思う。

(5) その他

【事務局 東雲委員】

本日の協議会での発言は議事録としてまとめさせて頂く。委員の皆様には内容を照会させて頂く。

また、次回の協議会は平成24年12月以降を予定している。詳しくは改めて連絡する。

2. 閉会

・会長挨拶

タクシー特措法は今年の9月で3年間の区切りとなる。来年の今ごろ実績をまとめ、協議会を開催したい。これが最後の協議会になるものと思われる。

現在、民主党ではタクシー事業法というものが考えられている。規制緩和後の事業許可制から事業免許制に戻したり、免許更新制や地域の運賃を定められた範囲にするなどの内容になっている。今国会に提出されるかも知れない。

また、交通基本法については、各種事業法の上にある概念法となる。これは2年くらい前から議論されているが、これも今国会に提出される。

今日の資料で運転者の賃金には驚かされたが、運転者の確保の問題にもつながるので国・自治体から応援できるようなことがないか検討したい。

お祭りの問題や支局の観光への携わり、高齢者のタクシーなどたくさん意見を頂いたのをこれを参考に新しい分科会に向けて進めていきたい。